



2026年(令和8年) 2月 第43号
 発行: 上島町自治研究会
 〒794-2506 越智郡上島町下弓削515
 Eメール: yukie.onishi@nifty.com
 編集者: 大西幸江
 自由参加型任意団体
 上島町自治研究会・会則抜粋

◆目的◆
 ①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。

◆活動◆
 ②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探求し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主活動を応援する。
 ③会は定期的に自治研究会を開催する。
 ※現在のところ毎月第4土曜日、14時から下弓削515番地「やよみ亭」にて開催。

◆入会/退会◆
 ④入退会には、特に条件を定めない。

子どもの幸せな環境を作るのは大人

― 学校の役割・子ども基本法・そして思いやり ―

福沢諭吉の、かの学問ノススメの冒頭は「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」で始まる。学問の有無によって、貧富・賢愚の差が生まれるが、国民一人ひとりが実学(実生活で役立つ学び)を身につけ、自主独立することで個人も国家も発展すると説いた。

地域コミュニティの核を有することが多く、防災、保育、地域の交流の場等々様々な機能を併せ持っている。また学校教育は、地域の未来の担い手である子供たちを育む営みであり、つまりは町づくりの在り方と密接不可分の性格を持っている。

教育の目的は、教育某本法によれば「人格の完成を目指し、平和的な国家及び社会の形成者としての資質を高め、真理と正義を愛し、個人の価値を尊び、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた、心身ともに健康な国民の育成を期す。」と長々示されている。戦後の教育はこの線にそって実施され、成果もあつたはず。

学校教育の直接の受益者である児童・生徒・保護者や、将来の受益者である就学前の子どもたちの保護者の声を重視しつつ、地域住民の十分な理解と協力を得て、「地域と共にある学校づくり」の視点を踏まえた、丁寧な議論を行うことが、わが町の学校として、その在り方が誇れるものとなるはずだ。

地域にとつての学校も、ただ単に児童・生徒の教育(知・徳・体)のための施設であるだけでなく、

「子どもが幸せな時は、みんなが幸せな時」、「子どもが幸せな時は、平和な時」。しかし、これを壊すのも作るのも大人であろう。

学校統廃合問題を考える

あなたの考える学校とは?

分散型小中一貫校(チェーンスクール)もあつていい?

昨年末、町内の学校を弓削小、弓削中一校に統合するという提言がまとめられた。教育委員会の諮問機関である「学校の在り方検討委員会」による、反対意見もある中でのかなり強引な採決だったと聞く。生徒数が減少するなか、何らかの対策が必要なことはわかるが、これが住民の、特に生名、岩城の住民の意思を十分考慮したうえで結論とは思えない。

道約40分。子供たちの通学負担も大きくなる。徳島県阿南市椿町は過疎化で生徒が減少しているが、交通の便が悪く学校統合は難しいという上島町に似た状況下にあつた。しかし非常に興味深い方法でこれを見事に乗り切り、成果を上げている。「分散型小中一貫校(チェーンスクール)」というシステムの導入だ。

上島町はそれぞれ成り立ちの違う島の集合体である。それぞれの島には独自の暮らしと歴史があり、その中心にはいつも「学校」があつた。地域コミュニティの中心である学校がなくなれば島の衰退につながる。岩城から弓削まで

- ①各島にそれぞれ一校を置く
- ②教育カリキュラムは町全体で統一
- ③専門教科はオンラインで実施
- ④教員は小中学で相互に協力する
- ⑤運動会、文化祭などは全校合同で開催
- ⑥生徒会、職員会などはオ

「迷つた時は一番大切な人をおもいだせ、その人が喜ぶかどうかを考えよ」と誰かが言った。まさにそれこそが、平和を目指す、幸せを求める方法でしょう。

一方、平成の大合併から学校統合が盛んに行われてきました。その結果弊害も多く出てきた。その失敗を受け、方向転換を図るよう見直しがされている。統合ありきではなく、地域の実情によってそれが判断されることが求められている。

弊害の具体的なことは、①不登校問題 ②いじめ問題 ③子どもたちの心への影響 ④地域コミュニティの希薄化 ⑤地域愛着心の低下 ⑥地域伝統文化の継承と伝達力低下 ⑦家庭内暴力等々である。

わが町の学校統廃合問題に関し、ではこのような観点から十分な検討がなされたかといえ、私自身は「学校の在り方検討委員会」のメンバーとして参加していながら、不十分だったと言わざるを得ない。ゆえに、結果として検討委員会の提言書どおり実行された場合は、先に述べた弊害が生ずるのではないかと心配でならないのである。

(岩城 岡野英二)



オンラインを活用。といった仕組みをとっている。この形態ならば普段は少人数のなかで個別指導を受けながら個性を伸ばせるし、オンライン授業や合同の行事を通じて町全体の子供たちとの交流もできるので協働性や社会性も養える。

離島には離島に適した教育モデルがあるはず。「統合ありき」の行政には任せられません。小中学校を弓削に統合するという提言は採択されましたが、これは行政への助言であり、法的拘束力はない。住民の意思で覆すことは可能です。「チェーンスクール」はあくまでも一例。どんな学校を作るかは上島町の未来につながる問題です。

(弓削 古賀佳子)



議員必携を読む 3

第1回は住民が意思を伝えることの大切さを、第2回は議会の使命が批判と監視にあることを学びました。

ここで「議員必携」とは、

町村議員に必要な実務上の知識をわかりやすく解説した議員必携の書籍のことです。上島町の全議員にも配布されますが、既に見たように住民も学ぶところが多くあります。第3回では議員の職責について学んでみます。

議員は、住民が選んだ、住民の代表者です。ですから、『議員の一言一句は、とりもなおさず住民の意見』／『議員が行う質問や質疑・討論は、同時に住民の疑問であり意見』／表決にあつては『住民の立場に立っての真剣な一票』でなければなりません。

激動する社会情勢の中で、地域社会も日々進展し、変革しているのですから、議会も行政もこれに的確に対処しなければなりません。そのためには、議員は、単に住民の代弁に終始するのではなく、『一歩踏み出して、常に住民の中に飛び込み、住民との対話を重ね、住民の悩みと声を汲み取りながら議論を重ね』住民福祉の向上と地域社会の発展を目指して時に住民に訴え、住民を指導し、その実現に積極的に努力することが求められています。

その理念を受けて上島町議会は、平成27(2015)年から、年に一度の議員と地区住民との意見交換会を始めたのですが、昨年は一度も開催しませんでした。住民との意見交換会に消極的であることは、5年前の議長不信任提案理由の一つでもありました。議員の職責を、住民が問わねばならない事態に、上島町は陥っているのでしょうか。

(ローカルデモクラシー研究所 代表 壬生優子)



人口減対策は「転出をいかに防ぐか」でもある

— 島の生活の魅力化は守りも大事 —

新春号の広報に「赤ちゃん誕生4人」。おめでとう。一方、死亡者10人。無念です。

全国の自治体で人口減に四苦八苦して居ます。八十超えた私の知り合いの老夫婦が、残された人生を生きた島で楽しく過ごしたい思いで長年住み慣れた都会からご主人の生まれ育った弓削島に引越して来て一年余り過ぎました。帰島時「〇〇さん、よくぞ奥様を承知させたのう。人生二度目の口説きか、良かったね」とでした。ところが昨年暮れ、ご当人が我が家に来られ「娘さんの住んで居るところに帰ることにした」と言う

ではありませんか。「ええ、何で？。奥さんも島に慣れて居たとばかり思っていたのに」と「実は家内が骨接して・・・」と通院に苦労した話をされました。島では最後の医療介護、福祉サービス、特に交通手段を含めた日常生活をするには、車を運転できないと非常に不便を感じた話をされました。

昨年行政が試験的にデマンド交通を走らせてはいますが、土日祝日は稼働しません。下弓削に住む住民でさえ不便を抱えるのであれば、他地域の住民はそれ以上に厳しい現実かと思えます。人口

減少の原因は、死亡以外にもこうした老後の生活での転出もあります。

島に魅力を感じ移住して来た若い方々は、車にも情報にも素早い対応ができますが、高齢者は人頼り行政頼りです。特に独り住まいで身近に縁者の居ない高齢者へのサービスを充実することは、歯止め迄にはならないにしても人口減少を防ぐ、に繋がるのでは、と感じるところです。

島外からの児童生徒を受け入れの学校存続も大事でしょうが、転出させないのも大切な手段かと思えます。



転出すれば空き家となり、空き家も人口減少と同じ大きな課題です。固定資産税納入者との先々の繋がりを途絶えさせない努力も大切でしょう。個人情報云々もありましようが、死亡転出での空き家の情報を、行政と地域住民で共有し、幽霊空き家にならない努力をしましょう。

将来の上島町を想う大きな事業での攻めも魅力ですが、守りもそれ以上に大切。高齢者も若者も、安心して住める優しい町を切に望みます。町づくり懇談会での町民からの要望、意見等を、行政は公開し、皆で対策考えましようや。

(弓削 浜村 寿)

子どもたちの声

地域の声に

どうこたえるか

前回のワトソン発行の後、ある保護者から子どもたちの意見をワトソンに載せることは可能かと問い合わせがありました。学校統廃合につき子どもたちも意見を載せてほしいと言っているというのです。そこでどんな形でもいいので記事を書いてみないかと提案したところ、何人かで相談した記事が持ち込まれました。それが今号の「岩城小学校の子どもたちの声」です。

「岩城老友会の声」は、学校在り方検討委員会の出した小・中弓削集中の答申内容が報道された後の岩城地区の高齢者たちの声です。検討委員会の話し合い中なんども繰り返されたのが「子どもたちのため」という言葉。ですが岩城住民が「子どもたちにアンケートを取ってほしい」と教育課にお願いしたところ、「やらない」と。

やりようでは都会に負けない教育環境が整備できる時代。でもこの町は正反対の政策、つまり新たに長距離通学を子どもたちに強いようとしています。

わが国でも「子ども基本法」が制定され、子どものことを決める時には子どもにも意見を聴く、と謳われている子どもたちが勇気をもって自分たちの声を聴いてほしいと原稿を持ってきてくれました。

この行動に私たち大人はどう応えるべきなのか。

(岩城 大西幸江)

岩城小学校の

子どもたちの声

◎橋が繋がっているからといって、なにかも弓削にまとめようとしているのが子どもにも伝わってくるよ。

◎子どもにも一人一人思っていることはあるのに、子どもの意見を聞いてもらえないのはなぜだろう。学校に通うのは子どもなのに。

◎友だちが増えるのは嬉しいけど、ケンカやいじめもその分今よりも増えると思う。

◎岩城小でやっている「しめ縄作り」や「海原獅子」の体験がなくなってしまうのが悲しい。

◎ソフト、野球がしたくて岩城小、岩城中に通う子がいるけど、岩城から学校がなくなるとソフトや野球ができなくなるのかな。

◎朝起きる時間が早くなるのが嫌だ。

◎バス酔いするから、通学がとても不安なんだけど。

◎陸上、駅伝、部活動、具合の悪い時などの迎えが今以上に大変になる。

◎バスに乗り遅れたら、どうやって学校に行くんだろう。



岩城老友会会員の声

◎学校がなくなったら、人と人とのつながりもなくなり、町そのものが寂しくなります。

◎文化伝統行事が廃れ、誰も地域を愛せなくなる。

◎家庭の負担が大変。

◎子どもは岩城の宝。岩城が沈んでしまう。学校、診療所もない島は誰も来ない。

◎子どもが大切、どの時代でも。学校がなくなると、過疎が極端に進んでしまう。

◎岩城と弓削の両立が良い。一校だけだと片方は近く、もう一方は遠く 大問題。

◎学校がなくなったら、島が寂しくなる。自分の島でみな暮らしたい。子どもを取らないで。

◎統合絶対反対。

◎私たちの意見を聴いてほしい。それぞれの島の子どもは、その島で育てたい。

◎子どもと高齢者の会話が持たなくなるといけない。学校は岩城に残すべき。

◎これからの生活が不安です。

◎子どもの心を一生育てないと。

◎自然に教わる人が多い。この環境が一番だと思う。

◎学校がなくなったら、町はそのままお先真っ暗。

◎岩城の子どもたち77%が統合イヤという意思是、最大限尊重されなければならぬ。

◎バスで通学するようになって、もし何かあった時、責任を持てますか。

◎不登校などが起こったときに、どうやってケアする？

投稿記事募集

上島町自治研究会では、皆さんの投稿記事を募集しています。募集内容は次の通りです。
次号テーマ：「行政に思うこと」
文字数：800字程度
締め切り：毎月の第2日曜日
記名原稿をお願いします。原稿は世話人に手渡し、もしくはメール(yukie.onishi@nifty.com)をお願いします。分量に関しては、趣旨の変わらない範囲で手を入れさせていただきます。

カンパ募集

ワトソン発行費用捻出のため、皆さんのカンパを募集しています。活動に賛同いただける方、応援したいからでも結構です。世話人までご連絡ください。
世話人：濱村寿・平山和昭
大西幸江他
カンパいただいた方、ありがとうございました。大切にさせていただきます。

